



## カンタス航空の新路線（関西＝シドニー線）が運航期間を拡大 就航開始前にフルサービスキャリアによる長距離路線の通年化が決定

関西エアポート株式会社は、オーストラリア最大手の航空会社、カンタス航空が2017年12月14日（木）より季節運航として週3便就航予定であった関西＝シドニー間の直行便が、通年運航に拡大されることをお知らせいたします。

長距離便の航空ネットワーク拡大へ向けた取り組みの一環として、関西エアポート株式会社は、関西広域連合、関西国際空港全体構想推進協議会など地元関係者と一丸になって、本路線の誘致を積極的に進めてまいりました。運航期間の通年化に向けても引き続き積極的なアプローチを続けたこと、またカンタス航空においても季節運航開始の発表後、本路線に対する反響が多く寄せられ、そのポテンシャルを高く評価いただいたことから、本路線の通年運航が実現いたしました。本路線の就航により、フルサービスキャリアの航空会社によるオーストラリアへの通年運航が10年ぶりに復活することとなり、関西国際空港における長距離便ネットワークはさらに充実いたします。

代表取締役社長 CEO 山谷佳之は「カンタス航空による関西＝シドニー線の運航が通年化することを、空港運営会社である関西エアポートはもとより、共に本路線誘致を進めてきた地元自治体や経済団体など関係者一同、大変嬉しく思っています。今後も本路線の運航開始にともない、より多くのお客様が日本・オーストラリア間を行き来することで、観光・ビジネスなど両国・地域の経済活性化につながればと考えています。」と述べています。

また、代表取締役副社長 Co-CEO エマヌエル・ムノントは「関西エアポートは、ヴァンシ・エアポートが持つ空港運営ノウハウやより戦略的な空港マーケティングの導入を積極的に進めており、それが本路線の通年化にもつながったと考えています。今後、更なる長距離路線拡大を目指して、航空会社や路線の誘致に力を注いでいきたいと考えています。」と述べています。

関西エアポート株式会社は、引き続き、中長距離路線も含めた航空ネットワークの拡充に努め、お客様の利便性向上とともに、快適で楽しい旅の体験を創造してまいります。

○ 運航開始日：2017年12月14日（木）

○ 運航スケジュール

路線	便名	スケジュール	運航日
シドニー	QF33 便	関西発 (22:50) → シドニー着 (10:40) +1	月
		関西発 (18:55) → シドニー着 (06:45) +1	木・土
	QF34 便	シドニー発 (13:25) → 関西着 (21:20)	月
		シドニー発 (09:30) → 関西着 (17:25)	木・土

※関係国政府の認可取得を条件とします。また、運航スケジュールは変更となる場合があります。

※2018年3月26日（月）より、木曜日の運航は水曜日に変更され、月・水・土の運航となります。

○ 機材仕様

型式：A330-300（月曜日のみ A330-200）

座席：297 席

- ・ビジネスクラス 28 席
- ・エコノミークラス 269 席



画像提供：カンタス航空

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社  
コーポレートコミュニケーション部  
Tel：072-455-2201



関西エアポート株式会社は、関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITM）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しました。関西エアポートは、オリックス株式会社とVINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。

関西エアポートは、両空港の安全とセキュリティを常に最優先しつつ、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化し、両空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへ貢献することを目標としています。

関西エアポートは、2015年12月15日付けで新関西国際空港株式会社との間で、事業期間を44年とする「関西国際空港及び大阪国際空港特定空港運営事業等公共施設等運営権実施契約」（実施契約）を締結しています。

詳しくは、関西エアポート株式会社ホームページ: [www.kansai-airports.co.jp/](http://www.kansai-airports.co.jp/)をご参照ください。

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号（登記上）	資本金	250億円
代表者	代表取締役社長 山谷 佳之 代表取締役副社長 エマヌエル・ムノント	設立年月日	2015年12月1日
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、 管理受託業務等	株主	オリックス 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% <sup>1</sup>



#### オリックス株式会社について

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では融資、投資、生命保険、銀行、資産運用、自動車関連、不動産、環境エネルギー関連などへ事業を広げています。また、1971年の香港進出を皮切りに世界36カ国・地域に拠点を設け、グローバルに展開しています。

2014年に50周年を迎え、これからも経営戦略である“「金融+サービス」の加速化”、“アジア等新興国の成長を取り込む”を推進し、新たな事業機会の獲得と持続的な成長を目指すと同時に、社会に貢献してまいります。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、35空港の開発・運営を行っています。同社の空港ネットワークを構成するフランス13空港、ポルトガル10空港（リスボンのハブ空港含む）、カンボジア3空港、日本2空港、ドミニカ共和国6空港、そしてチリのサンチアゴ空港には、合計で200社を超える航空会社が就航し、2016年の旅客者数は1億3,200万人にのぼります。

ヴァンシ・エアポートは総合インテグレーターとして、1万1,000人のスタッフの専門知識と経験を駆使し、空港の開発・資金調達・建設・運営に当たっています。またその投資力、国際ネットワーク、ノウハウを生かして既存空港の運営と機能を最適化し、施設拡充や新規建設を行っています。2016年の連結売上高は10億5,000万ユーロに達します。

詳細は [www.vinci-airports.com](http://www.vinci-airports.com) をご覧ください。

<sup>1</sup> 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社ジェイティービー、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱東京UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構